

**2004年11月2日(火) 国立科学博物館**

## **“新館”グランドオープン**

国立科学博物館(東京・上野公園)は、2004年11月2日(火)「新館」をグランドオープンいたします。「地球生命史と人類 自然との共存をめざして -」をテーマとした新館は、最新の研究成果を基に、地球・生命・科学技術の過去と現在、人類との関わり合いについて展示します。

**<テーマは「地球生命史と人類 自然との共存をめざして-」>**

新館のテーマは「地球生命史と人類 自然との共存をめざして - 」です。

広大な宇宙の中の小さな惑星、地球。その中でおよそ40億年前に生命が誕生し、変動する地球環境に適応して多様な生物が進化してきました。約600万年前に現れた人類は、次第に思考能力を高め、世界中に広がっていきました。やがて科学技術を発展させ、今では地球環境全体に大きな影響をあたえるようになっていきます。この「新館」には、地球と生命の共進化そして人類の知恵の歴史が展示されています。

国立科学博物館(科博)は今、「生き物たちが暮らす地球の環境を守り、自然と人類が共存可能な未来を築くために、私たちはどうすればよいか」、みなさまと一緒に考えていきたいと思っています。

**<新館の注目すべき特徴>**

- ・ **斬新な手法で、国内初公開のコレクションを多数展示**
- ・ **自主的・選択的利用が可能**
- ・ **国内の科学系博物館の中で展示面積が最大規模**
- ・ **情報技術(IT)を活用し展示解説をネットワーク化**

## <斬新な手法で、良質のコレクションを多数展示！>

最新の研究結果に基づき、良質な実物標本資料を中心に、これまでにない、斬新な手法で展示しています。

### 特徴的な展示の例

- ・ヨシモトコレクション（世界的規模の大型哺乳類剥製標本）（3F）
- ・SFU（無人宇宙実験・観測フリーフライヤー）（2F）国内初公開
- ・大型板根状締め殺しの木（マレーシア産）（1F）国内初公開
- ・バシロサウルス（クジラの祖先の約20m大型骨格）（B2F）国内初公開
- ・霧箱（宇宙から飛び込む宇宙線などを白いきれいな飛跡で観測）（B3F）  
他、多数展示

これらの重要な展示物について、みなさまに“本物”による迫力を感じて頂くため、効果的な展示物の設置方法、演出照明等を用いて、感動を体感できる展示室を演出しております。単に知識を提供するだけでなく、“考える”きっかけをつくり、感性を育む展示をめざしています。

## <自主的・選択的に利用が可能！>

各展示を強制的な順路に沿って観覧する構成ではなく、多様な来館者が、それぞれに自主的・選択的に展示を利用できる空間を目指しました。中心の動線とそこから各コーナーに枝分かれしてアプローチできる動線を設けています。お勧めコースも10コース設けてあり、来館者の興味・関心や観覧時間のご都合に合わせて楽しんでいただけるように提案させていただきました。添う

### 勧めコースも10コース

- 60分ハイライトコース、90分ハイライトコース
- 自然史ハイライトコース、理工系ハイライトコース
- 自然との共存を考えるコース、大きいコース、小さいコース
- 渦巻きコース、飛ぶことコース、クジラコース

### <国内の科学系博物館の中で展示面積が最大規模！>

「新館」は、地上3階、地下3階、展示面積約8,900㎡の広さをもちます。日本の科学系博物館の中では、最大規模の常設展示となります。

展示フロアはテーマに沿って大きなストーリーで展開していますが、入館者のみなさまが、見たい展示に直接アクセスできるように、目的に応じた選択動線を実現しています。さらに「ゆとりある展示空間」をめざし、休憩や情報提供、学習活動など多目的に利用できるスペース（ディスカバリーポケット）を各展示フロアに設け、来館者の方々の多様なニーズに応じてまいります。

### <情報技術（IT）を活用し展示解説をネットワーク化>

情報技術（IT）を効果的に活用し、新館の展示解説情報をネットワーク化することにより、展示解説がいつも最新情報として提供されます。更に、今後、一層内容を充実してまいります。つまり、国立科学博物館（科博）にくるたびに新しい解説情報にふれる楽しみがあります。

それらに加え、入館者のうち希望者には ICカードを配布し、館内のどこを見学したのか、履歴が残るシステムを構築しています。ICカードで登録された情報は、IDカード（パスワード付き）によって持ち帰り、国立科学博物館のWebサイトにアクセスして、ID番号（パスワード）を入力することにより、館内で得た情報を引き出すことができます。したがって、学校や家庭などにおいて、予習、復習を含めた学習の情報源として、十分に活用していただけます。

また、来館前の方にも、国立科学博物館のWebサイトにアクセスしていただくことにより、事前に新館の展示物の詳細内容についての情報を確認・活用していただけます。

さらに、この新館においては、PDA（情報携帯端末）展示解説ガイドをご希望の方に有料で貸し出します。当館の研究者の声による展示解説をお楽しみいただけます。普段、直接聞く機会がすくない、専門家の奥深い内容の解説を易しい表現でお聞きになりながら展示を見ていただくことができます。

## IT 化事例

### 【ICカードを利用した見学履歴の活用】



1 入館の際に、受付で IC カードを受け取ります。(無料)



2 展示解説用のガイドコンピューターが、館内各所に設置されています。



3 ガイドコンピューターのセンサーに IC カードをタッチすると、最初に選択した言語(日本語、英語、中国語、韓国語、日本語子ども用)で解説を視聴できます。見学の履歴は IC カードに記録されます。



4 帰りの際は、IC カードホルダーの裏側についている ID カードを外し、持ち帰ります。記載されている番号は、あなた固有の ID 番号です。



5 PCで「科博」のWebサイトにアクセスし、ID番号を入力すると、自宅や学校にいながら、見学した展示解説の確認や各種の情報検索が行えます。

### 【PDA(携帯情報端末)で研究者の声による展示解説を楽しみ、自宅で見学履歴を活用】



1 入館の際に、受付で PDA を借ります。(有料)



2 解説のある展示品の前に立つと、電子音で知らせます。



3 PDAのボタンを押すと解説をイヤホンで聞くことができ、見学の履歴が PDA に記録されます。

## フロアメッセージと展示構成

### 【3階 : 大地を駆ける生命 力強く生きる哺乳類と鳥類をみる】

#### <フロアメッセージ>

地球環境の豊かさの証として、さまざまな哺乳類と鳥類の存在がある。ここでは、力強く生きていたときの彼らの姿が、剥製となって今もその魅力をたたえている。動物たちがもっている多様な世界は、彼らを受け入れている自然の懐の深さを表しているといえよう。彼らが絶滅への道をたどることなく、未永く存続できる条件とは、どのようなものだろうか。

#### <展示構成>

- 進化の頂点・野生大型獣
- 動物たちが生きるための知恵
- サバンナの哺乳類
- われわれの隣人
- 絶滅の淵で
- 鳥の多様な形

### 【3階 : たんけん広場 発見の森】

#### <フロアメッセージ>

野山を歩き回ると、いろいろな出会いがある。この広場では、雑木林の自然が再現されていて、巣の中や落ち葉の下をのぞいたり、川原の石や地層を見て、ふだんは気づかない自然の不思議を探ることができる。さまざまな「森の標本箱」も用意されている。興味をもったら、本物の野山に出かけて行って、自然の不思議を発見しよう。

#### <展示構成>

- 地層を調べる
- 観察の森
- 鳥の目デッキ

## 【2階 : 科学と技術の歩み 私たちは考え、手を使い、創ってきた】

### <フロアメッセージ>

人類の進化と文明の発展にともない、素朴な好奇心は知的な探求心へ、粗雑な石器は高精度の機械へと進歩をとげた。科学技術の急速な発展により、私たちの生活は便利で快適になったが、それによってもたらされた問題も少くない。ここで紹介する江戸時代以降の日本の科学技術は、自然と一体になった日本固有の文化に根ざしつつ、外国の文化を受け入れながら発展してきた。その歩みは、今後の科学技術のあり方を考える手がかりとなるだろう。

### <展示構成>

- 科学技術への誘い
- 江戸時代の科学技術  
～算術の普及と発展、天文と測量、本草学から博物学へ、江戸時代の医学、匠たちの技術
- 近代化の始まり  
～基準と制度の統一、近代化に向けた人材育成、工作機械の導入、電力システムの導入など
- 近代化の成果  
～日本人の発明と創造、自動車産業のあけぼの、航空技術の発展、画像を送る新技術
- 新たな日本の科学技術の発展  
～機械式計算機、電子計算機、日本の宇宙開発
- 科学技術の過去・現在・未来

## 【2階 : たんけん広場 身近な科学】

### <フロアメッセージ>

私たちの身のまわりでは、常にさまざまな物理現象が起こっている。それらを応用した機械や器具は、私たちの生活を豊かにしてくれる。この広場では、音、光、力、運動、電気、磁気などの現象を体感し、実験することができる。いろいろな装置に触れ、動かし、身近な科学のなぞに挑戦してみよう。

### <展示構成>

- 電気と磁気
- 力と運動
- 光と感覚

【1階：地球の多様な生き物たち みんな、かかわりあって生きている】

<フロアメッセージ>

地球上の生物が、1000万ともいわれる種に分かれて進化してきたのは、生命現象としての共通性はあるけれども、それぞれがさまざまな環境に適応し、独自の形態や生活様式を生み出したからにはほかならない。しかし、生物たちは、別々に生きているのではなく、深く関わりあって生きている。私たちヒトもその例外ではなく、地球上の多様な生物たちが作りあげてきた豊かな生態系の一員として生きていることを、忘れてはならないだろう。

<展示構成>

- 海洋生物の多様性
  - ～ジャイアントケルプの海、亜寒帯の海、温帯の海、海の世界連鎖、熱帯の海、深海、海洋植物の多様性
- 陸上生物の多様性
  - ～地上の様々な景観、マングローブ林、熱帯雨林、湿原、温帯林、高山、砂漠など
- 多様性の由来～生命とは何か、生物の種、多様化の要因など
- 系統広場
- 自然を生き抜く工夫
  - ～サイズへの挑戦、温度と水との戦い、栄養を求めて、受け継がれる生命、共生と寄生など
- わたしたちはどれだけ知っているか～多様性の探求など

【地下1階：地球環境の変動と生物の進化 恐竜の謎を探る】

<フロアメッセージ>

大昔に絶滅した恐竜は、いつ地球上に登場したのか、どんな動物か、子孫はいないのか、謎はつきない。ここでは、高い運動能力や社会性など、恐竜に新しいイメージをもたらした最新の研究過程を、世界の研究者の声で紹介する。1億年以上にもわたって多様に放散し、地球上の生態系の主要な部分を占めていた恐竜たち。その存在は、生物進化のハイライトであり、生命の不思議さを感じさせるものといえよう。

<展示構成>

- 恐竜学入門～発見から復元まで
- 恐竜の生物学
- 恐竜の系統進化

【地下2階：地球環境の変動と生物の進化 誕生と絶滅の不思議】

<フロアメッセージ>

およそ40億年前に誕生した生命は、大きく変動する地球環境に適応してさまざまな形をとり、誕生と絶滅を繰り返しながら進化していった。恐竜の絶滅後に大発展した哺乳類の中で、人類は、器用な手と優れた知能によって際立った適応力を身につけ、世界中に拡散した。ここでは、あなた自身が進化の道のりをたどることで、生物たちがいかに新たな環境に適応してきたかを知ることができるだろう。

<展示構成>

- 46億年の散歩道
- 地球の生い立ちを調べる  
～地球の営みの記録、化石が語る地球の歴史
- 絶滅と進化をうながす地球環境  
～地球環境変動の記録、生物の大量絶滅、環境変動と生物の変遷、微化石
- 海で起こった生物の爆発的進化  
～先カンブリア時代の生物、ペンド紀の生物群、バージェス頁岩とチェンジャンの奇妙な動物群、古生代の無脊椎動物、三葉虫の繁栄、魚類の発展
- 陸上へ進出した生物  
～陸上への第一歩、森林の形成
- 陸上を支配した哺乳類  
～哺乳類の起源、中生代の哺乳類、森林にすむ哺乳類、草原・乾燥地にすむ哺乳類など
- 水に戻った四肢動物  
～水生哺乳類のフォアランナー、水の中での収斂適応、新たな食の開拓者、巨大な海生爬虫類など
- 空を飛んだ脊椎動物
- 人類の進化  
～霊長類の進化、猿人の進化、原人・旧人の進化、古代人の復元、新人の進化と世界拡散、新人の拡散など



**【地下3階：宇宙・物質・法則 自然の“しくみ”を探る】**

<フロアメッセージ>

約137億年前に誕生し膨張を続ける宇宙の中で、無数の銀河が形成され、私たちの太陽系が生まれた。広大な宇宙、それを構成する物質、これらを支配する物理法則を知ることがすべての科学的認識の基礎である。その認識によって、私たちの視野は広がり、自然観も変わってきた。このような自然の“しくみ”は、どこまで解き明かされているのだろうか。

<展示構成>

- 法則を探る ~ 電気・磁気・温度をはかる、熱放射とエネルギー、光の速さ、重力
- 宇宙を探る ~ 宇宙をみる眼、天体を見よう、宇宙の階層構造、太陽系、恒星・星雲・星団、銀河と銀河団など
- 物質を探る ~ 物質の階層構造、周期表 - 元素の多様性、分子のかたち - 物質の多様性、ナノの世界を探る、物質の究極の成り立ちを探るなど

**【地下3階：科博の活動 標本資料を集め、研究し、社会に還元する】**

<フロアメッセージ>

国立科学博物館（科博）は、世界中で調査を行い、多様な標本資料を集めている。標本資料は、研究によって付加価値を高められ、人類共通の知的財産として次世代へ継承されていく。調査・研究の成果は、学術に貢献するとともに、展示などの教育普及活動によって社会に還元される。このような博物館活動は、自然科学の基盤を支え、人々の科学に対する関心を高め、理解を深めることに役立っている。

## 国立科学博物館の施設概要

【名称】 独立行政法人 国立科学博物館

【所在地】 〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

### 【交通のご案内】

- JR 上野駅公園口から徒歩 5 分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅から徒歩 10 分
- 京成電鉄上野駅から徒歩 10 分

駐車場はございませんので、車での来館はご遠慮ください

【お問い合わせ】 TEL 03-3822-0111（月～金曜日） / 03-3822-0114（土・日曜日・祝日）

【ホームページ】 <http://www.kahaku.go.jp>

【開館時間】 9:00～16:30（入館は 16:00 まで）

【休館日】 毎週月曜日（ただし日・月曜日が祝日の場合は開館し、火曜日が休館）

特別展・企画展開催中は変更になる場合があります。

### 【常設展入館料金】

一般・大学生 / 420 円（210 円） 小・中・高校生 / 70 円（40 円）

小・中・高校生、毎週土曜日は無料

（ ）は 20 名以上の団体料金。いずれも消費税込み

読者プレゼント招待券のご提供について

展示写真を1点以上ご掲載のうえ、当館をご紹介いただける場合については、ご招待券を貴誌・紙の読者にプレゼントいたします。プレゼント数、応募方法などの詳細については、国立科学博物館 広報担当までお問い合わせください。

報道に関するお問い合わせは

国立科学博物館 広報事務局 担当：三井、大沢、園部  
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル7F（共同PR内）  
TEL 03-3575-9823 / FAX 03-3574-1005

オープン後（11月2日以降）の報道に関するお問い合わせ

国立科学博物館 経営管理部 広報担当：内尾  
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20  
TEL 03-5814-9102 / FAX 03-5814-9897